

緑の風 NEWS

JR東労組

NEWS



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2025年2月11日 No.69

2026 JR総連春闘をたたかい抜こう！その④

他企業の事象から、賃金について考えよう！

プルデンシャル生命保険の社員107人が、約500人の顧客から総額約31億円をだまし取るなどした問題が発覚しました。社内調査によると、不正行為は35年以上にわたっているとのことです。

プルデンシャル生命は、1月16日の発表で、長年続いた不祥事の原因を「高業績至上主義による企業風土の歪み」と認めています。「信頼回復に向けた改革の取り組みについて」と発表された中において、金銭不祥事等を招いた原因についてとして「営業管理職による営業社員の活動管理が十分に行われていなかったこと」「業績に過度に連動する報酬制度は、金銭的利害を重視する志向を持つ人材を引き付け、営業社員の収入の不安定さが不適切行為につながるリスクを増大させていました」と、営業社員の活動管理及び報酬制度上の課題が述べられています。また、経営管理態勢の課題も述べられると共に、「営業社員への過度な尊重」と「ビジネスモデルの絶対視」「好業績者が大いに称賛される」という組織風土が醸成されていたことがあげられています。

そして、2月10日にプルデンシャル生命は、記者会見で第三者委員会を設置すると発表しました。その第三者委員会は外部の専門家で構成され、事実関係の調査や原因を分析し、再発防止策を策定するとされています。

この不祥事に対して金融庁は、プルデンシャル生命の経営管理態勢(ガバナンス)に目を向けていて、採用・教育体制においても倫理観よりも「稼ぐ力」を偏重した採用が行われていなかつたのではないかという点を見ているそうです。また、この事件について“成績主義の暴走が招いた悲劇として語られるだろう”と記している記事もあります。



私たちJR東日本という企業で、公共交通機関の使命を果たすべく、安全第一でお客様にサービスを提供しています。JR 東労組は、**安全を守る「チームワーク」を壊すような格差や評価は必要ないと考え、能力昇給の導入にも一貫して反対の立場**で団体交渉での議論を行なってきています。

事故が起きれば、信頼は失われます。連続して発生している大規模輸送障害に対して警告書が出されている今、何よりも安全第一を守り抜いていかなければなりません！

格差のある賃金、格差のあるベースアップでいいのか、考えよう！

賃金・生活を守るために、組織強化・拡大を実現しよう！